

政府の宇宙開発利用体制に関する意見

平成23年6月21日
三菱総合研究所理事長 小宮山宏

6月6日の調査会において松井委員提出の資料（資料2）において、「宇宙予算の戦略的配分と多様な施策の連携のための体制整備」の対応策として「文部科学省、経済産業省の宇宙開発部門を内閣府に一元化し、JAXAの主管を内閣府とする」案が最適との提案がありました。この提案に対しては懸念を抱いており賛同しかねますので、以下のとおり意見を提出させていただきます。

- 国に限らず、どのような組織を作ったとしても縦割りの障害は生じるものであり、それを乗り越えるための工夫をしなければならない。そのため、国においては、各省庁の力を横断的にまとめあげるための組織として内閣府が設置されている。しかしながら、その機能は、十分に発揮されていない。
- こうした状況を改善するための組織は必要であるが、個別分野に閉じた組織では新たな縦割りを生じさせ、問題の解決には繋がらない。宇宙の体制について論じる必要があるとしても、宇宙だけに閉じた措置では、顕著な改善が得られるとは思えない。
- 各省庁の力を横断的にまとめあげるために一元化が有効なケースもある。震災からの復興など緊急性の高い「復興庁」、少子高齢化という長期課題に対応する「こども庁」、各分野のイノベーションを一層促進させるための「イノベーション庁」などである。一方、宇宙分野については、これらと比較するとまだ一元化する段階にはない。他の広範な科学技術分野とともに科学技術イノベーション全体として俯瞰した政策の検討を行うべきである。

以上